

ヒジキ

Hizikia fusiformis (Harvey) Okamura

ヒバマタ目 ホンダワラ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

これまで知られていた能登の3箇所の群落の内、人工護岸の能登島町野崎の群落は消失。自然岩礁の能登町姫はかつての生育面積に比べ10%まで減っている。同自然岩礁の志賀町福浦の群落に変化ない。新たに、5箇所の人口構造物に群落が発生したが、その後衰退が進行している。

形態

葉は円柱状で多肉質、食用となる。

国内分布

北海道南部、本州太平洋岸、四国、九州、本州日本海中・南部、南西諸島。

県内分布

自然岩礁では能登町姫と志賀町福浦に小さな群落が、同赤住に2株が生育している。新たに造成された離岸堤や護岸の5箇所で群落を認めたと、その後、衰退している。このほか、5箇所の人口構造物で、1株から数株の生育を認めた。

生態

潮間帯下部に群落を作る。

生育地の条件

干満の差がある潮間帯に生育する。また、ウミトラノオとの競合関係がよく知られている。

生存の危機

元金沢大学理学部臨海実験所技官の新谷 力氏（故人）によれば、能登町姫の群落は昭和20年代時には幅10m以上と大規模で、地元では食用に利用したという。現在は幅1mしかない。（D）

特記事項

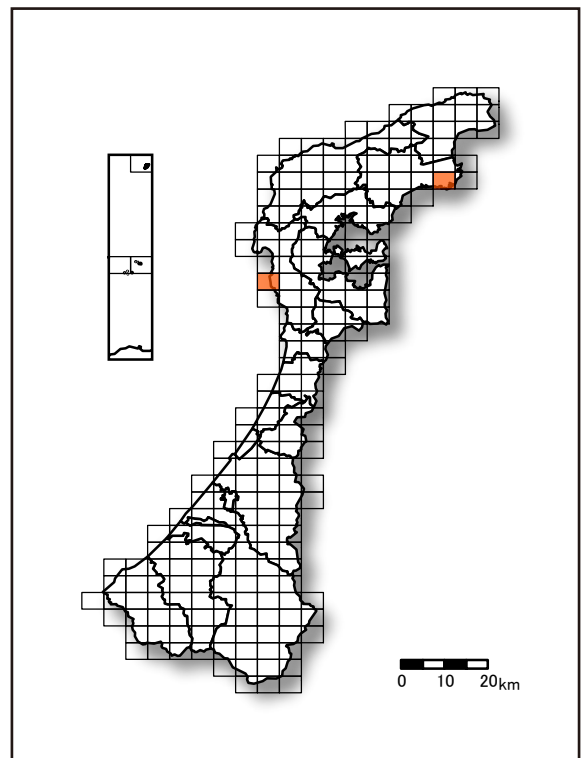
干満の差の少ない本県沿岸における潮間帯特性と生物の関係をj知る上で貴重な海藻である。

参考文献

佐野 修. 1988. 春は海からやって来る. 石川の四季と自然, 12p. 石川自然誌研究会, 金沢
東出幸真・池森貴彦・新井章吾・佐野修, 2004. 石川県におけるヒジキの分布概況. のと海洋ふれあいセンター研究報告, 第10号: 17-20



写真提供者: 佐野修



県内の分布